

2014年12月期 決算説明会



2015年2月24日

<http://ideacon.jp/>

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

当資料に掲載されている予想数値あるいは将来に関する記述の部分は、資料作成時の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。予想数値等は、今後の経済情勢等により、修正を行うことがあります。


<目 次>

- 1. 当社グループの紹介**
- 2. 決算のポイント**
- 3. 受注確保への取り組み**
- 4. 2015年12月期の計画**

< 1. 当社グループの紹介 >

1-1. 当社の概要

1-2. 当社グループの概要

1-3. 業務概要の紹介（ビデオにて紹介）

1-4. 当社のポジショニング

1-5. 主要顧客の概要

1-1. 当社の概要

- ◆ 名 称 いであ株式会社 (IDEA Consultants, Inc.)
- ◆ 本社所在地 東京都世田谷区駒沢
- ◆ 創業年月 1953年(昭和28年)5月
- ◆ 設立年月 1968年(昭和43年)9月
- ◆ 資本金 31億7,323万円
- ◆ 従業員数 853名(連結、2014年12月現在)
- ◆ 連結子会社 新日本環境調査(株)、沖縄環境調査(株)、東和環境科学(株)、以天安(北京)科技有限公司
- ◆ 事業概要 社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタント

1-2. 当社グループの概要

いであグループ

いであ+連結4社 **853名**

＜連結子会社：4社＞

＜非連結子会社：2社＞

新日本環境調査(株)

- ・水域、陸域環境調査
- ・環境アセスメントに係る
コンサルタント業務
- ・分析業務

沖縄環境調査(株)

東和環境科学(株)

- ・環境コンサルティング
- ・廃棄物対策
- ・土壌汚染対策

以天安(北京)科技有限公司

- ・中国における窓口業務

寧波国科監測技術有限公司

イーアイエス・ジャパン(株)

- ・環境計測機器の製造・販売・保守

日本設計サービス(株)

- ・成果品の製本印刷
- ・CAD図面の作成

ジーフォーム(株)

- ・土壌浄化装置等の開発・製造

(株)Ides

- ・海外ODA事業

UAE-IDEA Advance Analytical Company Limited (UIA)

- ・タイでの環境分析業務

中持依迪亜(北京)環境検測分析株式会社 (持分法適用)

- ・中国での環境分析業務

いであ(株)

756名

平均年齢 **44.5歳**

2014年12月現在

＜関連会社：5社＞

1-3. 業務概要の紹介

◆ビデオにてご紹介いたします



1-4. 当社のポジショニング

- ◆ 建設コンサルタント会社中の売上高順位は6位
- ◆ 「建設環境分野」の売上高順位は **1位をキープ**

順位	建設コンサルタント部門全体	建設環境分野	港湾及び空港分野	河川,砂防および海岸・海洋分野	復旧・復興業務
1	日本工営	いであ	パシフィックコンサルタンツ	建設技術研究所	パシフィックコンサルタンツ
2	パシフィックコンサルタンツ	建設環境研究所	日本工営	日本工営	建設技術研究所
3	建設技術研究所	環境総合テクノス	日本港湾コンサルタント	パシフィックコンサルタンツ	応用地質
4	オリエンタルコンサルタンツ	日本工営	エコー	東京建設コンサルタント	国際航業
5	八千代エンジニアリング	パシフィックコンサルタンツ	ニュージェック	国際航業	パスコ
6	いであ	建設技術研究所	オリエンタルコンサルタンツ	八千代エンジニアリング	八千代エンジニアリング
7	ニュージェック	エヌエス環境	いであ	ニュージェック	日本工営
8	国際航業	応用地質	八千代エンジニアリング	いであ	オオバ
9	エイト日本技術開発	アジア航測	日本海洋コンサルタント	三井共同建設コンサルタント	いであ
10	日水コン	八千代エンジニアリング	エイト日本技術開発	ドーコン	大日本コンサルタント

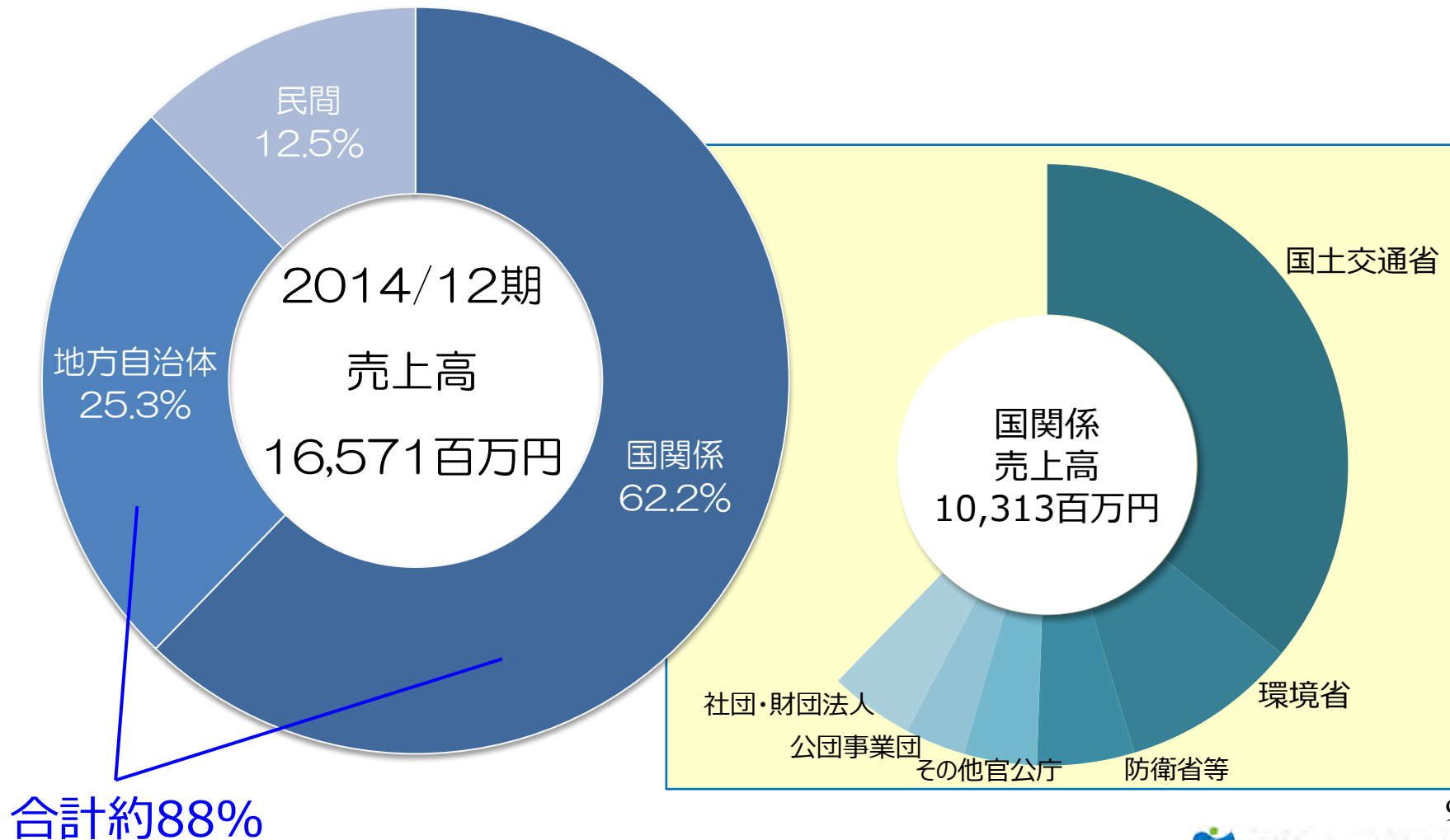
出典) 日経コンストラクション(2014.6.9)「建設コンサルタント決算ランキング2014」

注1) いであ(株)単体のデータを提供。

2) データは2013年12月期。建設コンサルタント部門売上高 14,293百万円, 全体売上高 14,907百万円

1-5. 主要顧客の概要

- ◆ 「国関係」は約62%、「地方自治体」が約25%
- ◆ 「国・地方自治体」で約88%、残り12%が「民間」



< 2. 決算のポイント >

2-1. 2014年12月期 連結決算概要

2-2. 連結貸借対照表

2-1. 2014年12月期 連結決算概要

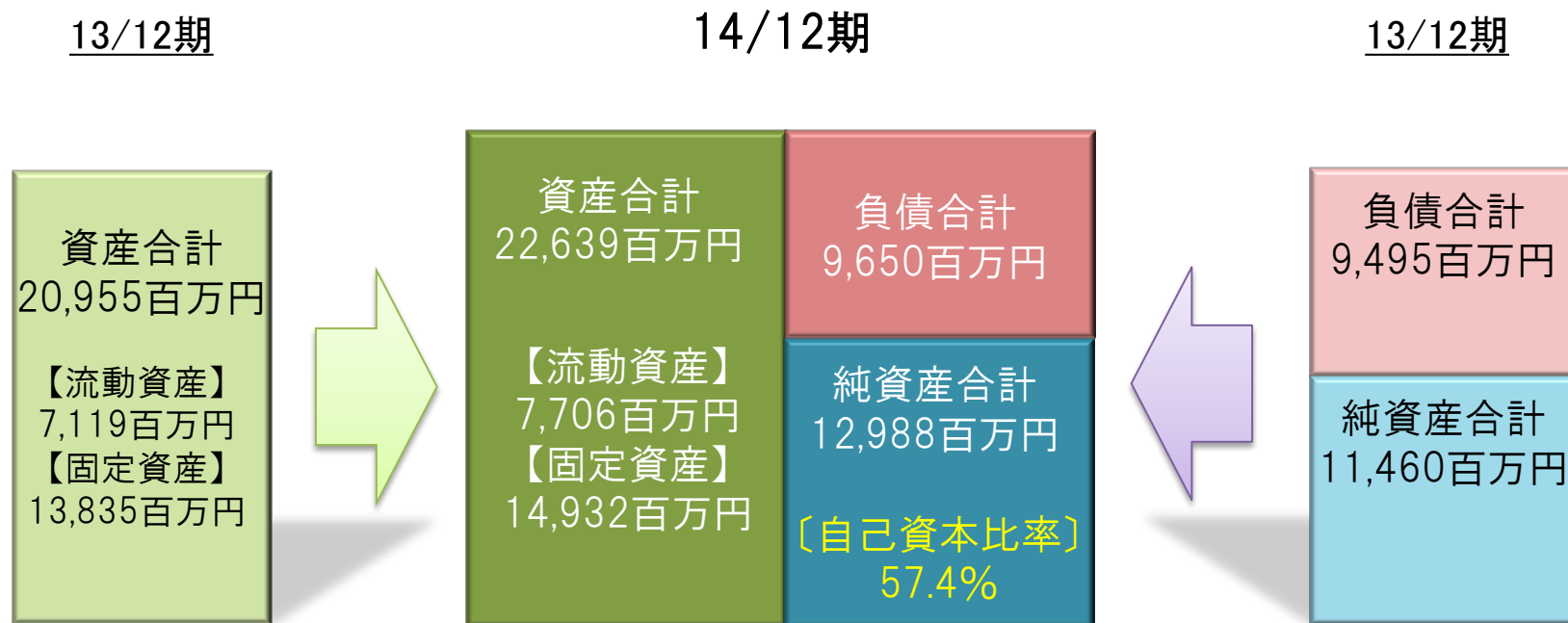
- ◆ 売上高は前期比5.5%増
- ◆ 売上高の増加及び徹底した工程管理による売上原価率の低減により、営業利益は18億2千5百万円を計上
- ◆ 経常利益は18億5千万円、特別利益として固定資産売却益を計上したことにより当期純利益は15億8千8百万円を計上

(単位：百万円)

	12/12期	13/12期	14/12期	増減	
売上高	14,464	15,703	16,571	867	5.5%増
営業利益	797	1,396	1,825	428	30.7%増
経常利益	823	1,316	1,850	533	40.5%増
当期純利益	759	964	1,588	623	64.6%増

2-2. 連結貸借対照表

- ◆ 資産合計は22,639百万円に増加
- ◆ 自己資本比率は57.4%と2.7ポイント上昇



< 3. 受注確保への取り組み >

- 3-1. 中期経営ビジョン (2013～2015)の概要
- 3-2. 2015～2017年の数値目標
- 3-3. イノベーションを担える人材づくり
- 3-4. 受注形態別受注高(単体)の推移
- 3-5. 重点事業分野に関する取り組み事例

3-1.中期経営ビジョン（2013～2015）の概要

イノベーションによる技術革新・市場創生と経営の効率化

中期経営ビジョンの位置付け

連結売上高200億円、営業利益率10%を達成するための成長軌道への移行を目指す期間

3つの柱

1. これまでの技術開発の成果をもとにした市場創生・新規事業の展開
2. グローバル人材の育成
3. コーポレートガバナンスの強化

重点事業分野

- 震災復興・除染事業支援 ● 災害リスクに対する防災・減災
- 既存施設の維持管理に関する調査・計画・設計 ● 再生可能エネルギーの活用検討
- 外洋や遠隔離島の環境調査及び海洋資源探査に伴う環境・生態系調査
- 生物多様性の確保対策や自然再生
- 食品・医療・微量化学物質の分析やリスク評価・管理
- 気象・防災情報や健康天気予報の提供
- 海外における事業展開（海外拠点の設置）

3-2. 2015～2017年の数値目標

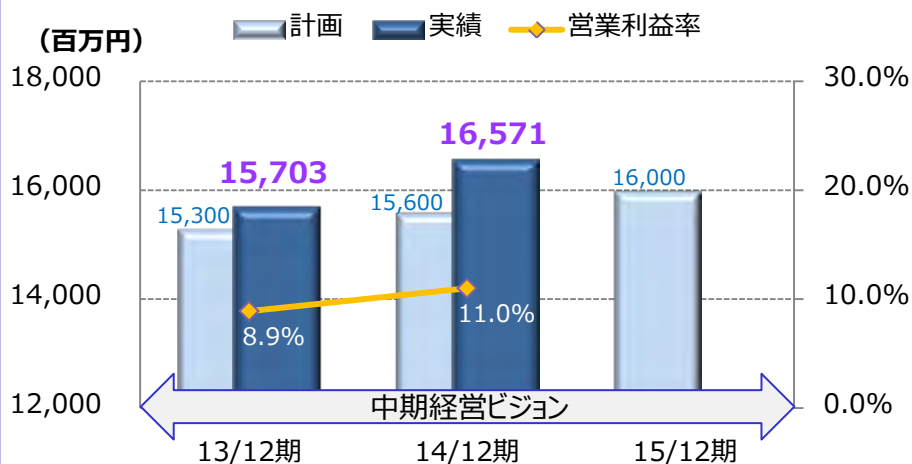
- ◆ 14/12期の売上高は約166億円、営業利益率は11.0%、当期純利益率は9.6%
- ◆ 2013～2015の中期経営ビジョンにおける最終年の数値目標を達成

数値目標（2013～2015）

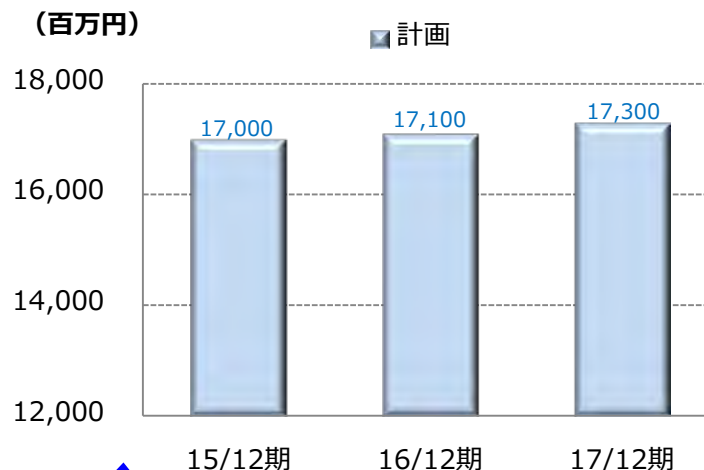
1. 連結売上高160億円
2. 営業利益率6%、
当期純利益率3%

数値目標（2015～2017）

1. 連結売上高**173億円**
2. 営業利益率**10%**、
当期純利益率**5%**



中期経営ビジョン
最終年の目標達成



ローリング

3-3-1. イノベーションを担える人材づくり

業務評定点の実績 (国土交通省発注業務)

区分	H22業務	H23業務	H24業務	H25業務
全平均	75.5	76.3	76.4	77.0

表彰獲得業務数の実績

区分	H22業務	H23業務	H24業務	H25業務
局長表彰	8	16	9	10
事務所長表彰	17	28	23	28
合計※	24	40	29	36

※ 局長表彰・事務所長表彰の重複を除く

技術士合格者数

区分	H22	H23	H24	H25
総数	26	32	34	29
内新規合格	20	19	30	22

専門技術研修・資格取得研修等の成果

プロポーザル特定率向上
23.6%(H22)
⇒**35.9%(H26)**

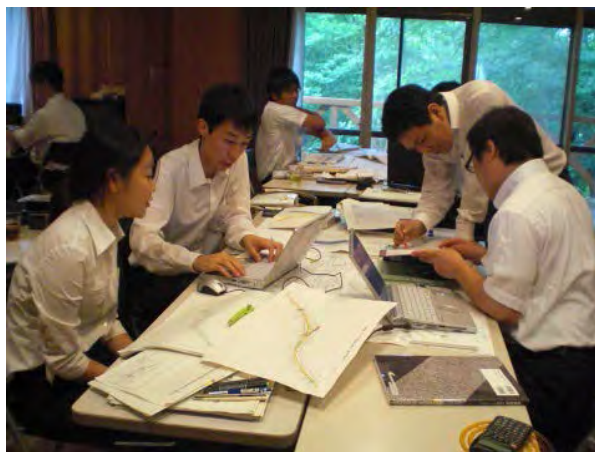
若手技術者による特定
(特定された業務の管理技術者の平均年齢)
48.7歳(H22)
⇒**45.8歳(H26)**

- ◆ 高付加価値業務確保
- ◆ 利益率の向上

3-3-2. イノベーションを担える人材づくり

富士研修所（山梨県）や現地で研修を実施

⇒ 階層別研修、技術士取得者研修、専門技術研修など

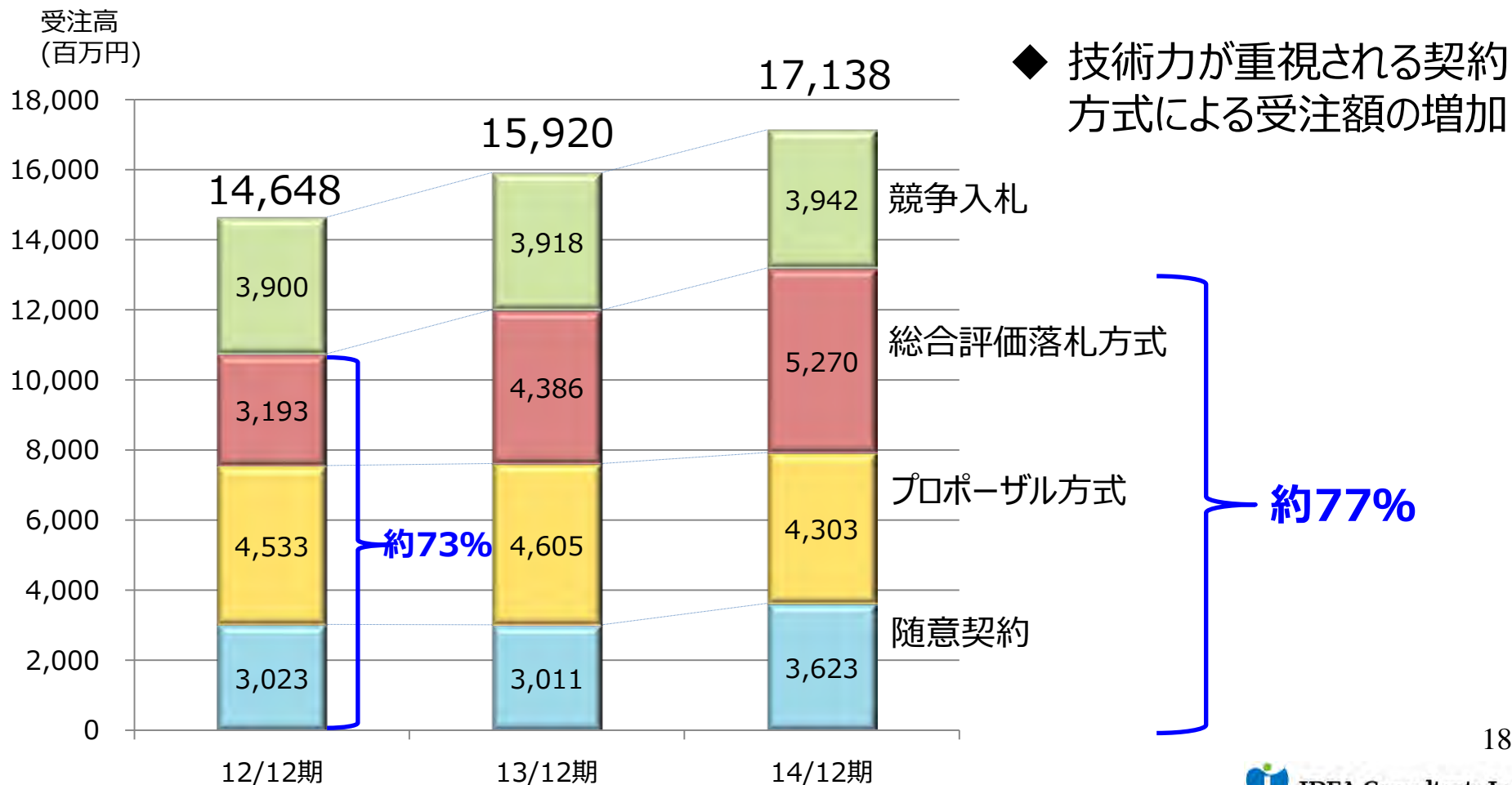


**100名収容の研修室、50名の宿泊施設を有する新富士研修所（山梨県）を
新設予定**

3-4. 受注形態別受注高(単体)の推移

技術力及び提案力向上・技術開発による高付加価値化・選択と集中

▶ プロポーザル・総合評価落札方式での受注を重視



3-5. 重点事業分野に関する取り組み事例

3-5-1. 防災・減災対策

3-5-2. アセットマネジメント

3-5-3. 再生可能エネルギー

3-5-4. 海洋生態系・海洋環境

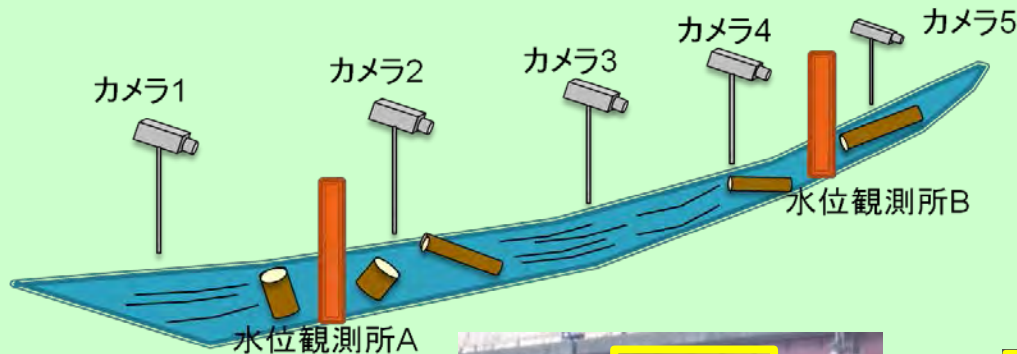
3-5-5. 生物多様性・自然再生

3-5-6. 化学物質のリスク評価・管理

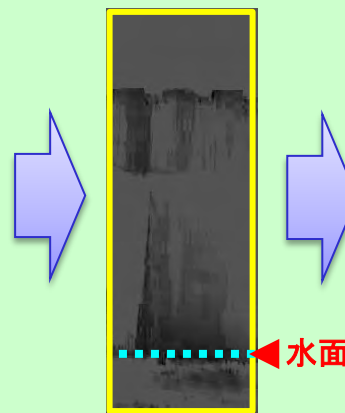
3-5-7. 食品・生命科学

3-5-1. 防災・減災対策(画像解析による水位計測システム)

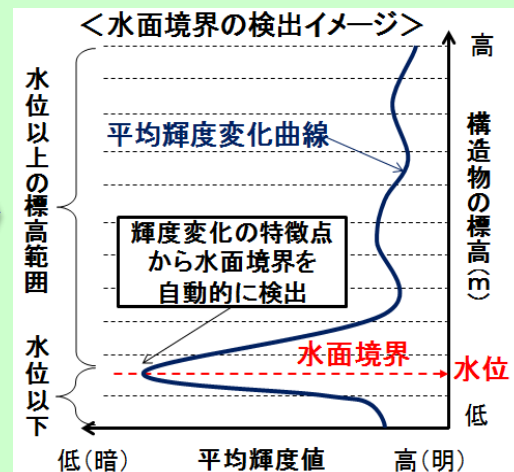
- ◆ 国交省の水位観測所は全国に1500箇所、CCTVカメラは約7,000基が整備
- ◆ 水位計では把握できない地先の水位を、カメラ映像から瞬時に計測するシステムが必要
- ◆ 当社において、カメラ等で撮影した映像（画像）から水面境界を自動識別し、非接触かつリアルタイムに河川の水位計測を行うシステム「Dr.i-sensor(*)」を開発*商標登録 第5098284号
- ◆ ゲリラ豪雨のように急激に水位上昇する洪水において、映像より地先の水位が計測可能



【水位計測範囲を設定】



【画像処理の状況】



【画像処理後の水面境界の検出例】

3-5-2. アセットマネジメント

◆ MMS調査技術を活用した道路施設の維持管理手法の開発

【MMS調査技術】道路を走行しながら周辺の3次元情報を取得



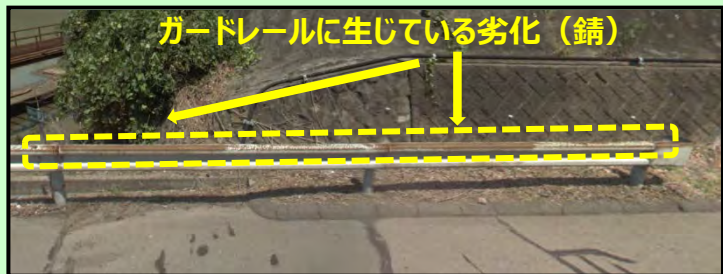
MMS : Mobile Mapping System

項目	MMSで取得可能な情報
レーザー スキャナー	◆ 3次元点群データ ※ 60万点/秒 ※ 測定距離300m
全周囲カメラ	◆ 全方向の画像データ
IMU / GPS	◆ 調査箇所の位置情報

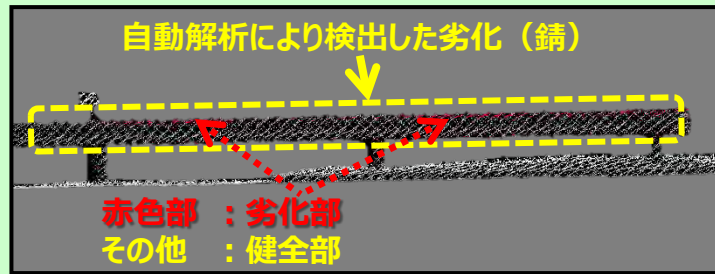
MMS調査技術を
道路施設の維持管理
に活用する主なメリット

- ① 点検時の交通規制が不要であり、**迅速に劣化状況を把握**することが可能。
- ② 従来まで**人間が目視点検していた作業を省力化**することが可能。
- ③ 点検⇒劣化状況の評価等の**維持管理プロセス全体の効率化**が可能。

全周囲カメラにより取得した道路施設の状況



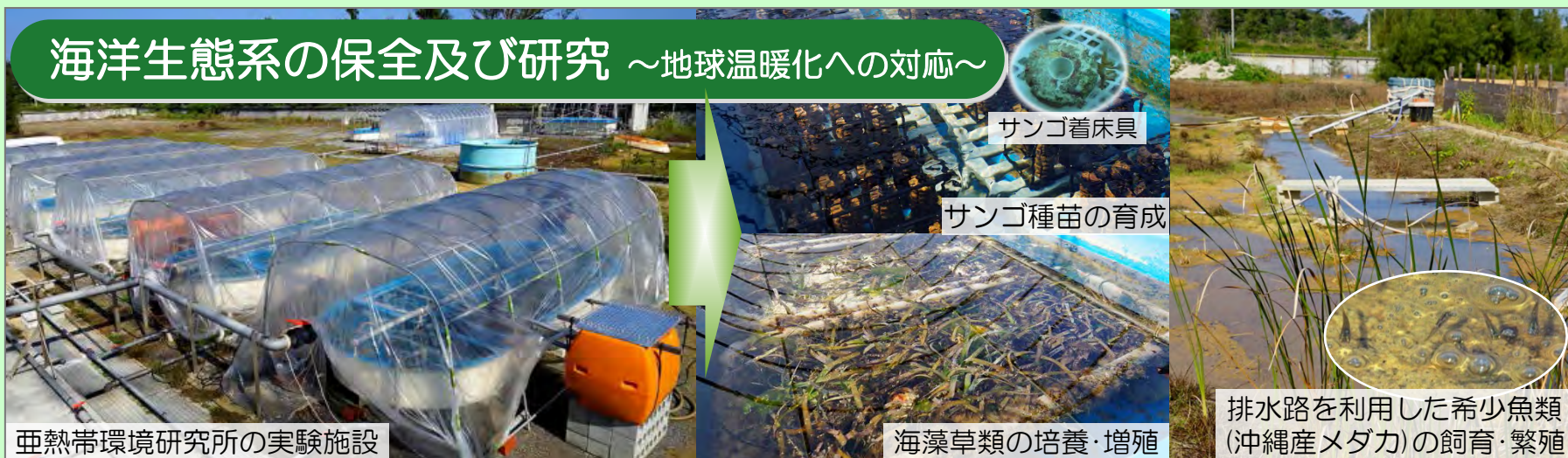
レーザースキャナーにより取得した道路施設の状況



自社開発の
プログラムにより
劣化箇所を
自動解析

3-5-4. 海洋生態系・海洋環境

海洋生態系の保全及び研究 ～地球温暖化への対応～



亜熱帯環境研究所の実験施設

サンゴ着床具

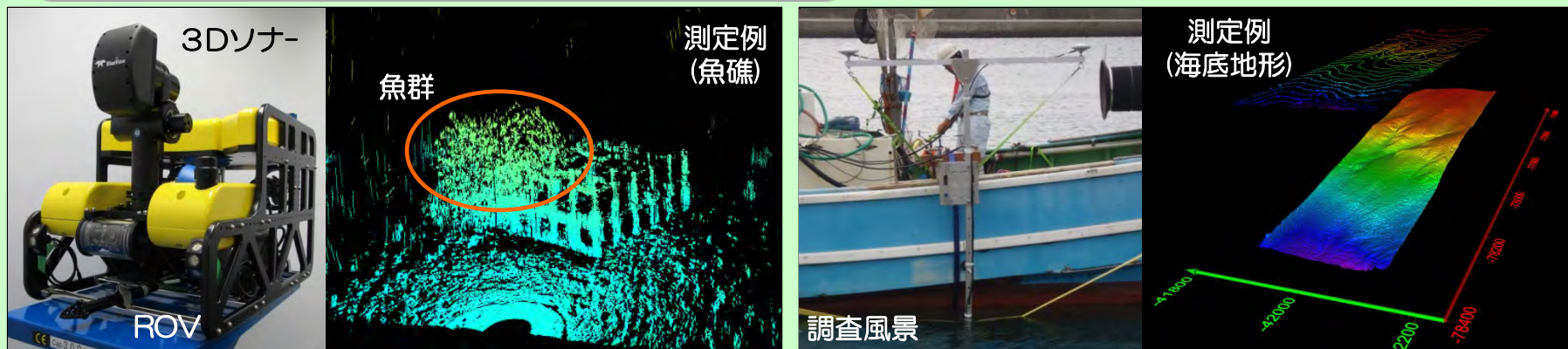
サンゴ種苗の育成

海藻草類の培養・増殖

排水路を利用した希少魚類(沖縄産メダカ)の飼育・繁殖

亜熱帯環境研究所(沖縄県名護市)における海洋生態系保全に関する取り組み

海域環境の把握・調査 ～沿岸から外洋へ～



3Dソナー

ROV

魚群

測定例(魚礁)

調査風景

測定例(海底地形)

ROV(水中ロボット) 水中3Dスキャンシステム搭載

水中音響測深器(ワイドバンドマルチビームソナー)

3-5-5. 生物多様性・自然再生

◆ 地球温暖化への対応

害虫や害獣の個体数管理・希少種等の減少への対応・外来種の分布拡大への対応、各種適応策のアセスメント【例：シカ対策】

◆ 遺伝子技術の活用

遺伝子解析技術を用いた効率的な調査・遺伝的多様性を考慮した保全対策・希少種等の育種や増殖【例：アマミノクロウサギ保全調査】

◆ 生態系サービスの評価

施策の検討、事業活動の持続可能性評価



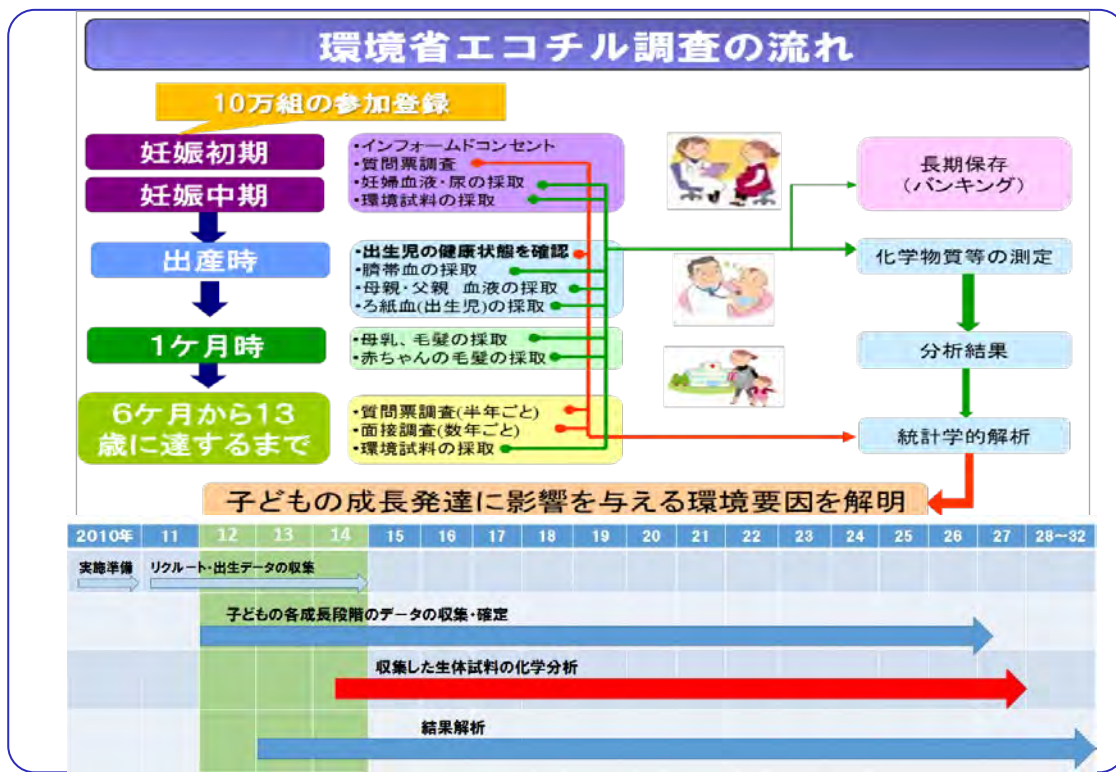
害獣（シカ）の食害により被害を受けた森林植生



奄美大島の希少固有種アマミノクロウサギ

3-5-6. 化学物質のリスク評価・管理

- ◆ 化学物質のヒトの健康への影響に関する分析・調査研究
(環境省・エコチル調査、POPs 残留状況監視事業等への対応)
- ◆ 化学物質の生態影響に関する生物試験 (魚類・甲殻類・両生類)
(環境省・化学物質の内分泌かく乱作用に関する評価、化審法GLP試験への対応)
- ◆ 生物応答を用いた排水管理 (日本版WET試験)



母体血,臍帯血,母乳,尿など生体試料中の化学物質を測定

<出典> 環境省「エコチル調査」HP、平成26年度第1回エコチル調査企画評価委員会資料一部抜粋

3-5-7.食品・生命科学

安心・安全な暮らしのために

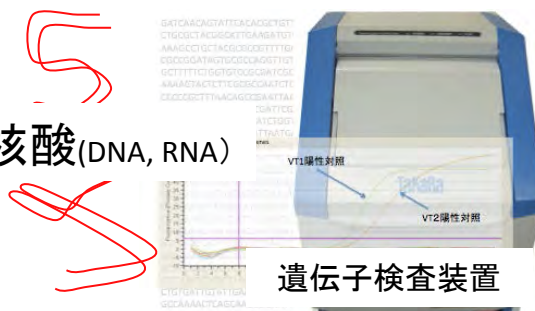
先端的バイオ技術を用いて、暮らしの安心・安全を提供



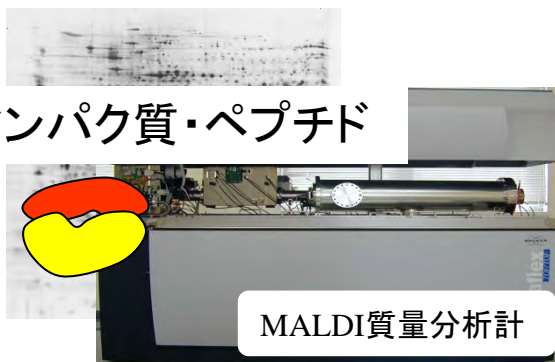
化合物
(有害物質・有用物質)



核酸(DNA, RNA)



タンパク質・ペプチド



健康な生活環境の評価

先端的解析技術・装置を駆使し、暮らしの中で生じるさまざまなリスクを正しく評価します

- 食の安全
- アレルゲン、病原物質
- 有害化学物質 など

創薬・診断分野の研究支援

バイオメディカル系の研究・創薬・診断分野の以下のような研究開発を支援します

- iPS細胞の作成・評価
- 細胞のガン化機構解明
- ガンの早期診断 など

< 4. 2015年12月期の計画 >

4-1. 2015年12月期連結決算予想

4-2. 期首繰越受注残高の推移

4-1. 2015年12月期 連結決算予想

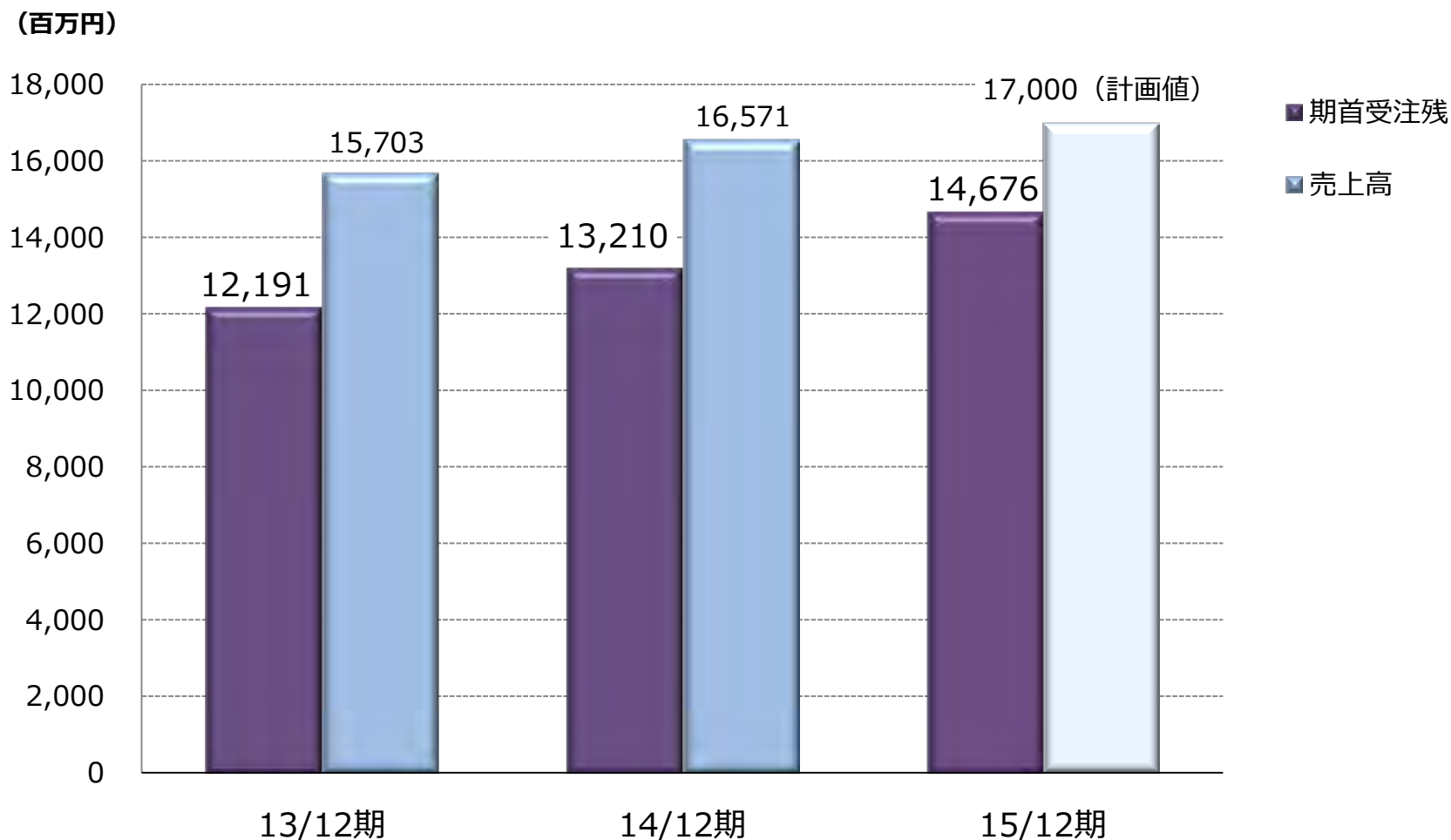
- ◆ 売上高は約4億円増の170億円
- ◆ 営業利益14億4千万円、当期純利益8億6千万円

(単位：百万円)

	2015/12	2014/12 実績	2013/12 実績
売上高	17,000	16,571	15,703
営業利益	1,440	1,825	1,396
経常利益	1,440	1,850	1,316
当期純利益	860	1,588	964

4-2. 期首繰越受注残高の推移

◆ 期首受注残高は前期を約14億円上回る146億7千6百万円



ご清聴 ありがとうございます

質疑応答